

① 二回投票の怪

間もなく参議院議員通常選挙である。3月末にN市に帰郷した為に、参議院選挙の選挙人としては、帯広市に登録されており、従って、比例区、選挙区選挙の不在者投票用紙が帯広の選挙管理委員会から送られてきて、N市役所で不在者投票を行なった。

然るに、帯広の選挙管理委員会から電話があり、『誠に申し訳ないが、N市市長選挙も同時に実施される為に、極めてレアなケースではあるが、市長選の選挙人としてN市に登録されているので、参議員選挙も同市に在住しているとして投票して欲しい。N市の選挙管理委員会から投票用紙を送付するようになっているので、二度手間になって申し訳ありませんが…』との事であった。

即ち、不在者投票として実施した投票は無効だと言うのである。との事で同一選挙に二回投票すると言う極めてまれな体験をする事となった。

小生は、市長選挙だけは、別に投票用紙が送られてくるものだとばかり思っていたが、左にあらざらしい。投票は同一日だとしても、夫々の公示日が別だから、参議院選挙は帯広に選挙人登録、市長選はN市に選挙人登録でも可笑しくはないのではないかと思っていたのだが・・・。公示日現在の住民登録地で有権者登録が為されるのだから、それで構わないと思うのだが。北海道選挙区であれば意中の人物も居たのに残念だ。

それにしても、選挙管理のプロが何故この様なミスをするのか、理解に苦しむ。選挙人を確定すると言う事は選挙管理委員会の極めて重要な職務である筈だ。また、少なくとも、小生が不在者投票に行った際に選挙人台帳としっかりと照合すれば、この様なミスは防げた筈だ。

厳正、公正であるべき国政選挙において、かかるミスはあってはならない事だろう。確かに稀なケースかもしれないが、それを言い訳にする事は出来ない。

帯広側はN市長選の事を知る由がないので、当然の処置をしたに過ぎない。望ましくはN市の方で選挙人を確定する際に、小生の選挙・投票権がN市にある事を確認して、その旨を帯広市に連絡すれば良かったのだ。

② 日本の行く末を争点に！

今朝の読売新聞の世論調査によると、自民党にとって選挙結果はかなり厳しいものになると予想されている。勿論、予断は許さないが、色々な指標が自民党苦戦を表している所以、多分その様になるのだろう。

願わくば、防衛庁の省昇格問題や国際貢献に関わる所謂恒久法の策定、集団的自衛権そして為し得れば現行憲法の改正を成し遂げるまで、自民党なканずく現首相に引き続き政権を担当して貰いたいものだ。防衛庁自衛隊が抱える最後の問題に道筋をつけ得るのは彼を置いて他に誰だろうか？

確かに年金問題に関する世論の反応は厳しいものがあるのだろうが、国民・有権者には、それ以上に日本の骨格を如何にするかの防衛・安保と教育基本法を判断基準にして欲しいものだ。国政選挙は日本の進路を方向づけるべきものであって、それらに関する事項を争点に正面から正々堂々と議論すべきである。

国民受けのする、世論に迎合する事ばかりを掲げていたのでは、日本の政治は衆愚政治に陥ってしまう。政治家の質は彼等を選んだ国民の資質そのものに他ならない。悲し

いがそれが現実だ。国家百年の大計を論じても票に結びつかないと言うのも事実だが、それを容認せざるを得ないと言うのは、寂しい限りだ。地元等に利益を誘導型の政治家ばかりが跳梁跋扈するのでは、日本の先行きは暗いと言わざるを得ない。

今回の国政選挙の後、政界は一寸先は闇とは言うものの、首相の言明にもある通り、向こう 3 年間は国政選挙はないものと考えられる。一方で、日本は近々に解決すべき最重要課題が目白押しであるのは前述した通りである。一刻の猶予も許されない状況だと思ふ。日本を何処に向かわせるかが問われる極めて重要な選挙である筈だ。それが、投票率が 50% 程度、争点が余りにも低次元と言ったら怒られるかもしれないが、そういうレベルでは日本に明るい未来はない。悲観的にならざるを得ない。

(了)